

科目名	ことばと論理			科目コード	5030		
英文名	Logical Thinking and Expressions			科目区分	【共通科目】(選択科目)		
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145		単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探索する		<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	2回1セットの形で、論説を読む。論理的な読解力を育成することが目標の講義である。課題に対して、能動的な取り組みが必要であり、受け身の学習では、講義の意味は極めて薄くなってしまふ。						
授業の狙い・到達目標	大学生生活の集大成である卒業論文の作成には、日本語の文献を正しく読み解く力がスタートとなる。本講義では、現代社会が抱える様々なテーマにつき、論説を読んでいく。そうした学習を積み重ねることで、3年次以降のゼミ学習の基礎となる力を養成することを目指す。						
授業内容のレベル・関連科目	3年次以降のゼミ学習の基礎となる読解力の養成を最重要課題として位置付ける。また、本講義の履修は、他講義でのレポート作成に対して、総論的な意義を持つものとなる。						
授業外学習(予習・復習)	新聞・テレビ、インターネットを通じて、ニュースをよく見ておくことが最大の予習である。また、「論文の書き方」をテーマとした本を読むことも重要で、本学図書館を利用してほしい。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。						
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。						
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。						
成績評価方法	第1, 3, 5, 7, 9, 11, 13回で提出を求める課題を含めて平常点を70%, 期末テストは30%。						
成績評価基準	授業の狙い(に)あげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

授業スケジュール

ことばと論理

1 ・ 2 回	学習内容	ガイダンス及びテーマ①、地球温暖化問題。論説を読み、内容を解説する。
	予習	ネット検索などで、地球温暖化問題について調べてみる。
	復習	講義の内容を振り返り、「授業外学習」で指定した復習を行う。
3 ・ 4 回	学習内容	テーマ②、日本にいる定住外国人。論説を読み、内容を解説する。
	予習	ネット検索などで、日本社会の内なるグローバル化について調べてみる。
	復習	講義の内容を振り返り、「授業外学習」で指定した復習を行う。
5 ・ 6 回	学習内容	テーマ③、日本の食料自給率と日本農業。論説を読み、内容を解説する。
	予習	ネット検索などで、日本の農業問題について調べてみる。
	復習	講義の内容を振り返り、「授業外学習」で指定した復習を行う。
7 ・ 8 回	学習内容	テーマ④、高齢社会の進展と「高齢者」の定義の見直し。論説を読み、内容を解説する。
	予習	ネット検索などで、今日の少子高齢化状況について調べてみる。
	復習	講義の内容を振り返り、「授業外学習」で指定した復習を行う。
9 ・ 10 回	学習内容	テーマ⑤、今日の携帯電話事情。論説を読み、内容を解説する。
	予習	ネット検索などで、携帯電話の普及とそれがもたらす問題について調べてみる。
	復習	講義の内容を振り返り、「授業外学習」で指定した復習を行う。
11 ・ 12 回	学習内容	テーマ⑥、インフラの維持管理の困難。論説を読み、内容を解説する。
	予習	ネット検索などで、日本のインフラ建設の歴史などについて調べてみる。
	復習	講義の内容を振り返り、「授業外学習」で指定した復習を行う。
13 ・ 14 回	学習内容	テーマ⑦、日本社会とジェンダー。論説を読み、内容を解説する。
	予習	ネット検索などで、男女平等／男女格差などについて調べてみる。
	復習	講義の内容を振り返り、「授業外学習」で指定した復習を行う。
15 回	学習内容	全体のまとめ、本講義のまとめと復習を行う。
	予習	今まで学習した内容について、総復習をしてくる。
	復習	講義を踏まえ、改めて総復習をする。

科目名	自己表現演習			科目コード	5050		
英文名	Self-expression Training			科目区分	【共通科目】(選択科目)		
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147		単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/> 1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="radio"/> 3.論理的・批判的なものの見方を養う			<input type="radio"/> 4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="radio"/> 5.学習の過程で発見した課題を探究する			<input type="radio"/> 6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	新聞記事等から社会問題をとりあげ、それに対する自分の考えを整理し、他者にわかりやすく伝える練習をする。また、絵本の読み聞かせの在り方を学び、表現力もみがく。各テーマにつき、①講義、②発表あるいは課題の提出、③フィードバックの3本立てで行なう。						
授業の狙い・到達目標	新聞記事等を読み、社会問題やある事柄に対する自分の意見を、多様な読者に対して、分かりやすく、論理的に伝えることができるようになる。また、絵本の読み聞かせを通して、聞き手の感情にも留意しながら、自分を表現できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	日常生活において、新聞やニュースを見聞きして社会問題に関心を持ち、それらについて自分の意見をもつことが大切である。フィードバックを受けて思考や記述を高められる柔軟性も求められる。						
授業外学習(予習・復習)	新聞記事をたくさん使うので、日頃から、新聞を読む習慣をつけること。授業後は、各回のテーマで課題を出すので、それについて他の情報も得ながら考え、レポートを作成すること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	指定しない。資料はテーマに応じて授業の中で配布する。						
参考書・その他教材	新聞を使用する。また、読み聞かせのために履修生に絵本の準備を求める。						
課題に対するフィードバック	次の回の授業の冒頭に、履修生が取り組んだ課題についてコメントを付したものをフィードバックとして配布する。						
成績評価方法	課題への取り組み(40%)、発表(40%)、授業への貢献度(20%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	履修生一人一人が主体的に参加することが求められる。日頃から社会問題等に関心を抱き、自分の意見を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。質問の際は、科目名、学籍番号、氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

自己表現演習

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	何をどのように伝えるか—HOWの思考と表現法を身につける。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 HOWの思考と表現法に関する課題に取り組み、提出すること。
3回	学習内容 予習 復習	一つの事象を具体的に説明する。 事前に配布した資料を読み、学習する内容をおおまかにつかんでおくこと。 具体的な事例をあげることに留意しながら、課題に取り組み、提出すること。
4回	学習内容 予習 復習	事実と意見を書き分ける。 事前に配布した資料を読み、おおまかに内容を理解しておくこと。 事実と意見の書き分けを意識して課題に取り組み、提出すること。
5回	学習内容 予習 復習	新聞記事を読み、時事問題について、弁証法的に意見を述べる。 事前に配布した新聞記事に目を通しておくこと。 授業の終わりに提示した新聞記事を読み、課題に取り組み、提出すること。
6回	学習内容 予習 復習	弁証法的な意見の書き方についての課題を受けて、フィードバックを行ない、検証する。 前回の授業の内容に照らし、自分が提出した課題を見直しておくこと。 フィードバックを受けて、自分が書いた文章をより良い形に書き直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	新聞の投書欄を読み、社会問題についての様々な見解を受けて、意見を発展させる。 事前に配布した新聞記事に目を通しておくこと。 授業の終わりに提示した新聞の投書欄を読み、課題に取り組み、提出すること。
8回	学習内容 予習 復習	発展的な意見の書き方についての課題を受けて、フィードバックを行ない、検証する。 前回の授業の内容に照らし、自分が提出した課題を見直しておくこと。 フィードバックを受けて、自分が書いた文章をより良い形に書き直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	履修生が自ら新聞記事を選び、補足的な情報を調べたうえで、論理的な文章で意見を書く。 これまでの授業をふまえながら、新聞記事を事前に選んでくること。 授業で受けたアドバイスをふまえ、課題を完成させ、提出すること。
10回	学習内容 予習 復習	テーマに関する情報を収集して論理的な文章を組み立てる課題についてフィードバックを行なう。 前回の授業の内容に照らし、自分が提出した課題を見直しておくこと。 フィードバックを受けて、自分が書いた文章をより良い形に書き直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	絵本の読み聞かせの歴史と意義について学ぶ。 事前に配布した資料に目を通しておくこと。 絵本の読み聞かせの歴史や意義についてふりかえり、次週行なう小テストに備えること。
12回	学習内容 予習 復習	絵本の選び方と読み聞かせの方法について学ぶ。 事前に配布した資料を読み、おおまかな内容を理解しておくこと。 授業の内容をふまえ、読み聞かせ用の絵本を選ぶこと。
13回	学習内容 予習 復習	選んだ絵本を用いて、グループで読み聞かせを行なう。 自分が選んだ絵本を繰り返し読み、発表ができるよう準備をすること。 発表者は自己評価シートを、聞き手は発表者への質問シートを記入し、提出すること。
14回	学習内容 予習 復習	絵本の読み聞かせについて、自己評価シートと質問シートをもとに、フィードバックを行なう。 前週の他の履修生の発表を受けて、自身の絵本の選定や読み聞かせ方について振り返ること。 フィードバックを受けて、自身でもう一度読み聞かせを実践してみること。
15回	学習内容 予習 復習	自分の意見を伝えることと自分を表現することについて総括を行なう。 これまでの授業でとりあげた新聞記事や資料を読み返しておくこと。 絵本の読み聞かせについて、意義や方法、実践を通して、自身の考えをまとめて提出すること。

科目名	文化芸術演習			科目コード	5060		
英文名	Practice of Japanese Flower Arrangement			科目区分	【共通科目】(選択科目)		
担当教員	谷口 美智子		教員コード	236		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・4時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探索する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	いけばなの歴史と小原流の基本のかたちを指導する。500年以上の永きにわたる伝統あるいけばなの基本を修得することができる。毎時間実際に各自で花をいけて、基本の修得と美的感覚を養い、人間形成の助言としたい。						
授業の狙い・到達目標	季節のうつろいに自然の様々な変化を感じ、感動し、自然とのふれ合いを通じて豊かな人間形成に役立つと思われる。所定の単位を習得すると修了証が受けられる。						
授業内容のレベル・関連科目	いけばなをするうえで前提となるお花の扱い方や花材の選び方を学ぶ。そして「たてるかたち」「かたむけるかたち」としたシンプルな型をいけることで、少ない花材数でも美しくいけられる技術が身に付く。なお、学ぶ知識や技術は、小原流いけばな全体の基礎となる。						
授業外学習(予習・復習)	定められた「かたち」の中で「かたちの特徴を理解し、当日の花材をどのような形にどこへ挿せばよいか基本に忠実にいける。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	小原宏貴『小原流花型カード』一般財団法人 小原流事業部						
参考書・その他教材	花材代が授業1回につき300円かかる(試験日の花材代も含む)						
課題に対するフィードバック	特になし。						
成績評価方法	実技試験、授業への貢献度で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	当日の花材と真摯に向き合い花と語ろう。花材により「いけるかたち」の順が変わる場合がある。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	講義中に尋ねること。						

授業スケジュール

文化芸術演習

1回	学習内容	ガイダンス、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。
	予習	シラバスを読んでおくこと。
	復習	授業内容を振り返ること。
2回	学習内容	華道の歴史、伝統文化いけばなの歴史を講義する。
	予習	教科書を読んでおくこと。
	復習	授業内容を振り返ること。
3回	学習内容	小原流創始、初代から5世までの歴代家元について講義する。実技指導も行う。
	予習	教科書を読んでおくこと。
	復習	当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
4回	学習内容	花形全般について、講義する。「たてるかたち」の実技指導も行う。
	予習	教科書を読んでおくこと。
	復習	当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
5回	学習内容	花意匠基本のいけ方について、講義する。「たてるかたち」の実技指導も行う。
	予習	教科書を読んでおくこと。
	復習	当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
6回	学習内容	花意匠基本のいけ方について、講義する。「たてるかたち」の実技指導も行う。
	予習	教科書を読んでおくこと。
	復習	当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
7回	学習内容	役枝について、講義する。「かたむけるかたち」の実技指導も行う。
	予習	教科書を読んでおくこと。
	復習	当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
8回	学習内容	役枝について、講義する。「かたむけるかたち」の実技指導も行う。
	予習	教科書を読んでおくこと。
	復習	当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
9回	学習内容	花材取合せについて、講義する。「かたむけるかたち」の実技指導も行う。
	予習	教科書を読んでおくこと。
	復習	当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
10回	学習内容	花意匠の展開について、講義する。「ひらくかたち」の実技指導も行う。
	予習	教科書を読んでおくこと。
	復習	当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
11回	学習内容	水揚法について、講義する。「ひらくかたち」の実技指導も行う。
	予習	教科書を読んでおくこと。
	復習	当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
12回	学習内容	花意匠の展開について、講義する。「ひらくかたち」の実技指導も行う。
	予習	教科書を読んでおくこと。
	復習	当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
13回	学習内容	花意匠の展開「ならぶかたち」について、講義する。花意匠のいけ方について反復練習を行う。
	予習	教科書を読んでおくこと。
	復習	当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
14回	学習内容	全体のまとめ、本演習のまとめと復習を行う。
	予習	今まで学習した内容について、総復習をしてくる。
	復習	演習を踏まえ、改めて総復習をする。
15回	学習内容	授業進度の調整日。
	予習	実技試験に向けて、どの形でいけるか考えておくこと。
	復習	自分で花を買って、花意匠で学んだ3つのかたちをいけてみる。

科目名	日本文化入門			科目コード	5070		
英文名	Introduction to Japanese Culture			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)		
担当教員	梶原 健嗣	教員コード	145	単位数	2単位		
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・2時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	現在の日本文化は、各時代に花開いた様々な文化的が重層的に折り重なったものである。そうした観点に立ち、歴史的に日本文化の発展・変容を理解することを目指す。						
授業の狙い・到達目標	先史時代から現代にいたる日本文化を、歴史のなかで正しく理解することを目指す。重要なのは、政治・社会の流れのなかで、各時代の文化的特徴を理解することである。そうすることで、知識の断片にならない多面的な理解につながる。						
授業内容のレベル・関連科目	内容は、講義名のとおり、入門レベル。最も関連の高い講義は日本文化史Ⅰ／Ⅱ。そのほか「歴史と現代Ⅰ、Ⅱ」、「史学概論」も関連性は高い。併せて履修することを勧める。						
授業外学習(予習・復習)	講義では、世界遺産に登録されている文化遺産や寺社が中心となる。「百聞は一見に如かず」であり、これらを実際に訪れてみることで、またそれらの紹介資料(ホームページ、紹介映像)を閲覧することが、予習・復習として効果的である。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。						
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。						
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。						
成績評価方法	平常点30%、期末テスト70%						
成績評価基準	授業の狙いあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、大学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスマナー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

授業スケジュール

日本文化入門

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見直しとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2回	学習内容 予習 復習	法隆寺を中心に、飛鳥時代の歴史と文化を概説する。 飛鳥文化について、自分なりに調べてみること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3回	学習内容 予習 復習	東大寺を中心に、天平時代の歴史と文化を概説する。平安時代への移行期まで。 天平文化について、自分なりに調べてみること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4回	学習内容 予習 復習	平等院鳳凰堂や浄土信仰を中心に、国風文化の時代の歴史と文化を概説する。 国風文化について、自分なりに調べてみること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5回	学習内容 予習 復習	厳島神社や中尊寺を中心に、武士台頭の時代の歴史と文化を概説する。 浄土信仰について、自分なりに調べてみること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6回	学習内容 予習 復習	金閣寺・銀閣寺を中心に、室町時代の歴史と文化(北山文化、東山文化)を概説する。 北山、東山文化について、自分なりに調べてみること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	中世的価値観が変容する戦国時代を、南蛮文化とともに、歴史・文化を概説する。 大航海時代とヨーロッパ人との交流について、自分なりに調べてみること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	近代的発展の基礎がつけられた時代として江戸時代を捉え、その歴史・文化を概説する。 江戸時代の今日的意義について、自分なりに調べてみること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10回	学習内容 予習 復習	明治維新の「国際化・近代化」を概説し、同時代の歴史と文化を学ぶ。 明治維新の意義について、自分なりに調べてみること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	大正デモクラシーと当時の「モダンライフ」を総合的に捉え、その歴史的意義を理解する。 大正デモクラシーの現代的意義について、自分なりに調べてみること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12回	学習内容 予習 復習	戦後復興と高度成長の意義を、「大衆消費社会」という文化的側面から捉え直す。 昭和の時代(とりわけ戦後)の文化的特徴について、自分なりに調べてみること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13回	学習内容 予習 復習	平成以降の現代を、IT社会とグローバル化をキーワードに捉え直す。 平成の文化的特徴について、自分なりに調べてみること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。第9回～第13回までの講義をおさらいする。 第9回～第13回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ、本講義のまとめと復習を行う。 第8回講義。第13回講義を中心に講義の復習をしていくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	史学概論			科目コード	5080		
英文名	Outline of Japanese History			科目区分	【共通科目】(選択科目)		
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	本講義は、日本の近現代史である。幕末の開国の時期から現代まで日本の歴史を、政治及び外交分野を中心に概説する。「概論」講義であり、教養レベルとして必須の事項を概説する。						
授業の狙い・到達目標	講義は前半が戦前、後半が戦後である。前半では、明治憲法体制と5度の対外戦争を中心に学習していく。後半の戦後でも、対外関係を中心に学習し、前半の学習と対応させる。総じて、日本と国際社会の位置づけを歴史的に理解できる講義を目指す。						
授業内容のレベル・関連科目	概論講義であり、それほど専門的なものは求めない。関連科目としては、歴史と現代Ⅰ、Ⅱがある。併せて履修することで、理解が深まるものとする。						
授業外学習(予習・復習)	高校までの教科書でいうと、「日本史A」と同じ範囲の学習である。その教科書があるならば、その復習は講義をスムーズに理解するうえで有用である。また、講義レジュメの参照資料URLをたどってみると、発展的な復習になる。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。						
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。						
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。						
成績評価方法	平常点30%、期末テスト70%						
成績評価基準	授業の狙いあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

授業スケジュール

史学概論

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2回	学習内容 予習 復習	開国から明治維新に至るまでの政治過程を概説する。 明治維新と幕末の騒乱について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3回	学習内容 予習 復習	明治国家の形成と発展を、「明治憲法体制」として概説する。 自由民権運動や大日本帝国憲法について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4回	学習内容 予習 復習	近代日本最初の対外戦争である日清戦争、またその後の日露戦争の意義を概説する。 日清、日露戦争や19世紀末の日本につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5回	学習内容 予習 復習	第1次世界大戦の経緯・意義を、日本及びアジアを中心に概説する。 第1次世界大戦の展開につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6回	学習内容 予習 復習	大正期の日本社会を、シベリア出兵そして関東大震災を中心に概説する。 関東大震災の政治・社会・経済的な意義(影響)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	第2次世界大戦の経緯・意義を、日本及びアジアを中心に概説する。 第2次世界大戦の展開につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	占領下で成立した戦後体制を概説する。概ね、昭和20年代が講義内容となる。 占領下の日本のできごとにつき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10回	学習内容 予習 復習	高度成長と55年体制の成立を概説する。概ね、昭和30年代が講義内容となる。 55年体制を構成した自民党、社会党について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	ソ連、韓国、中国との国交回復過程をたどり、日本の「戦後処理」について概説する。 日本の戦後外交について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12回	学習内容 予習 復習	世界的には冷戦崩壊、国内的には55年体制の崩壊だった1990年代を概説する。 1990年代の世界的な動向について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13回	学習内容 予習 復習	グローバル化と日本社会の変容をテーマに、平成以降の時代を概説する。 平成以降の日本社会の変容について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14回	学習内容 予習 復習	国際経済⑥、後半のまとめ。第9回～第13回までの講義をおさらいする。 第9回～第13回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ、本講義のまとめと復習を行う。 第8回講義。第13回講義を中心に講義の復習をしていく。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。